様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１１１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ１２４９５

研究課題名（和文）東アフリカ高学歴女性のライフコース戦略の研究：農村家族関係と新興中間層形成の動態

研究課題名（英文）Study on Life Course Strategy of Highly Educated Girls/Women in Eastern Africa: With special reference to intra-familial relationships, gender norms and paths to rising middle class

研究代表者
白石　壮一郎（SHIRAISHI, Soichiro）

弘前大学・人文社会科学部・准教授

研究者番号：８０５１２２４３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　サハラ以南アフリカ地域では、1990年代央の初等教育無償化政策以降に中高等教育進学率の上昇と、それにともなう農村-都市人口移動が加速した。本研究は、この状況にともなう農村部出身の高学歴若年女性のライフコース戦略について、ウガンダ共和国・ケニア共和国両国の農村部・地方都市・首都圏におけるライフヒストリー聞き取りと参与観察調査を実施した。その結果、おもに（1）都市部インフォーマルセクターへの一時的滞留状況、（2）配偶者選択に関する状況、（3）農村部家族・親族との関係、のそれぞれについてのかの女らの主観的な評価が記述され、都市部におけるライフコース上の困難の内実を質的な側面から明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近年の研究動向では、サハラ以南アフリカ諸国の大衆消費社会化、都市開発と郊外化、新興中間層の出現が指摘されており、その中心的対象は南アフリカ共和国であった。本研究は、ミクロで質的なアプローチから記述していくことにより、これまであまり対象とされてこなかった東アフリカにおける同様の傾向の実態と、そのなかにある高学歴の若者、とくに女性たちの社会生活と意識を明らかにし、課題を提起するものであった。今後、まとめられた調査データをもとに、和文論文、英文論文3本程度が公刊される予定である。この成果は、同地域における若者を対象にした各国の政策・開発援助プロジェクトの立案に貢献する。

研究成果の概要（英文）：In Sub-Saharan Africa, the increase in secondary and higher education enrolment rates and the rural-social migration accelerated after the policy of free primary education in the mid-1990s. This study conducted life-history interviews and participant observation in rural areas, regional cities, and metropolitan areas in Uganda and Kenya to investigate the life course strategies of educated women from rural areas ranging in age from 20 to 39 in this context. The results revealed qualitative aspects of the reality of late marriages and life course difficulties in urban areas, mainly by describing their subjective valuations of (1) their temporary stay in the urban informal sector, (2) their situation regarding their choice of spouse and (3) their relationship with their rural families and relatives.

研究分野：文化人類学、地域研究

キーワード：高学歴非エリート層　社会移動　都市新中間層　機会／待機　晩婚化　ソーシャルメディア　ジェンダー規範　プレカリティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

サハラ以南アフリカ地域では、1990 年代央の初等教育無償化政策以降に中高等教育進学率が上昇し、それにともなう農村-都市移動が加速した。農村-都市移動の主体も、従来の中心だった男子に加え、近年女子が急増している。若年層の高学歴化と新興中間層の出現、都市部の大衆消費社会化については、同地域内では南アフリカ共和国が先進国であり、研究蓄積もできつつある［Southall 2016, Melber 2016, Sumich 2018 など］。一方で、東アフリカ諸国の都市部でも近年同様の傾向がみられるものの、有力なモノグラフはまだ現れていない。かれらはマスとして把握されはするが、中高等教育卒業前後の進路決定プロセスやライフコースの考え方については不明なままの「新しい層」である。

アフリカ都市社会の研究は 1930 年代終わりにマンチェスター大学の都市人類学研究グループによって着手され、以来多くの民族誌が公刊されてきた［Epstein 1958, 1992, Mitchell 1969 など］。しかしながら、近年の中高等教育大衆化の状況に乗って農村-都市移動を果たす若年層は、すでに都市人類学で研究蓄積がある従来型の出稼ぎ労働や単純労働（工場・鉱山労働）、都市インフォーマルセクターにおける労働者層、あるいは一部の植民地期エリート層とは現象的に連続しつつも意識を別にする、進学・就職など社会移動の機会を待機しつつ、それを容易に果たし得ない都市滞留層だと捉えることができる。

２．研究の目的

そこで本研究では、東アフリカにおける上記のごとき都市滞留層を「高学歴非エリート層」と位置づけ、進学によって農村-都市移動を達成した若年層のなかでも女性の社会移動の実態と意識についての調査を企画した。女性を対象にする理由は、近年とくに高学歴化がすすみ進学による地域移動・社会移動の主体として定着しつつあること、男性に比べて伝統的なジェンダー規範・親子規範の制約から自由ではないと考えられること、の 2 点である。

東アフリカ諸国では外国からの投資が増加したとはいえ 2 次・3 次産業が未発達なため、増大した高等教育修了人口の就業の受け皿となるような正規就職の機会は圧倒的に不足しており、都市部の大多数の大卒の若者たちが就職難に直面している。農村部出身の若者たちは、都市部の高等教育修了後（あるいは休学中）も農村部 U ターンを忌避し、「延長した独身時代」のなかでごく小さな機会のホワイトカラー就業や結婚による社会移動のアスピレーションを保持しつつ、なんとか生計を保ちながら都市部滞留を続けることとなるのである。

したがって本研究の目的は、大学大衆化後のこうした高学歴非エリート世代のうちとくに女性に着目し、かれらの社会移動アスピレーション維持とライフコース（進学・就職・結婚）戦略に関する特徴を抽出すること、それらと連関した農村家族との関係戦略、および都市部での生計維持戦略とを総合的に把握することであった。

３．研究の方法

ウガンダ共和国、ケニア共和国の両国の首都圏（Kampala、Nairobi）を中心にして、調査対象者らの出自に関連する農村部（Kapchorwa、Kitale）、地方都市部（Mbale、Eldoret）を加えて調査地にし、20 歳代・30 歳代の女性 10 名を対象にした調査をおこなった。対象者はいずれも両国国境地帯のエルゴン山域とその周辺にくらす民族集団 Sabiny の出自であり［Goldschmidt 1976］、初等教育無償化政策以降に就学してのち中・高等教育に進学、大学・短期大学・専門学校などに在学、あるいは卒業し degree、diploma、certificate などを取得している。かの女らに小学校時代からのライフヒストリーの聞き取りをおこない、現在の生活拠点や生業などについて参与観察を複数回おこなった。

４．研究成果

調査の結果、農村部出身高学歴非エリート層女性たちについて、おもに（1）都市部インフォーマルセクターへの一時的滞留状況、（2）配偶者選択に関する状況、（3）農村部家族・親族との関係、それぞれについての実態とかの女たちの主観的な評価が記述され、都市部における進学・就業難、晩婚化などのライフコース上の困難の内実が質的な側面から明らかになった。

（1）都市部インフォーマルセクターへの一時的滞留状況。大学学部など高等教育を修了できたとしても、正規就職先は容易にみつかるわけではない。だが、かの女らは農村部への U ターンについては忌避し、都市に滞留する。その間、同じ高学歴非エリート層の男性にくらべ女性は、①古着や小物の仲買・行商や小売雑貨店経営など従来のインフォーマルセクターでの零細な商いに一時的に従事し、日常的な現金稼得を果たしていること、②都市部の友人とのルームシェアまたは都市部で結婚しあるいは独居している兄弟姉妹の住居に寄食して暮らすこと、などの傾向が明らかになった。また、この傾向は首都郊外や地方都市がウガンダよりも発達しているケニアの調査地についていえた。一方、男性は多少条件の悪い地区や部屋に暮らすことになっても独居を好み、零細な商いに従事するケースはほとんどなく、臨時雇い職に就くか、無就業でガールフレンドに経済的に依存しているケースが多くみられた。

就職や進学・海外留学についての情報は友人・知人づてのものが信頼され、インターネット掲示板やソーシャル・ネットワーク上の情報、該当の貼り紙広告などは信頼されない。基本的に就職機会には connection と corruption とがつきものだと認識されており、国内で周縁農村部の少数民族集団出身のかの女らにはよい友人・知人からの情報を得ることにわずかな期待を寄せている。就職にせよ進学・海外留学にせよ、有力な情報を得た場合には周囲の知人・友人、そして兄弟姉妹にも進路が確定するまでは凡そ知られぬようにふるまい、そのことについては「妬みからの呪術を自分は信じないが、社会にいる多くの人々はいまだ信じているので」と説明する。

（2）恋人関係や配偶者選択（courtship）については、都市部友人ネットワーク（大学・教会）や、セカンダリ時代からの友人ネットワークを基盤に知り合った相手と 2-3 ヶ月という短期間から 2 年間程度の期間まで恋人関係を続け、破局する場合もあれば結婚関係にいたる場合もある。ソーシャル・ネットワークやマッチング・アプリなどは、登録されている相手が経済的に安定している場合は既婚者である場合や結婚ステイタスを隠している場合が多いといい、記載情報は信用されていないものの、よく使われている。並行して複数のボーイフレンドとの関係を維持する事例もみられ、その場合にこうしたメディアを介して知り合った経済的に安定した既婚者をそれとわかっていて相手に選ぶ場合がある。このような恋人事情は姉妹や親しい友人にも通常知らせず、ごく限られた信頼できる親友とのみ情報共有している。

（3）農村部家族・親族との関係。小学校からセカンダリに進学する段階で地元地域を出て寄宿舎制学校（boarding school）に進学した者が多数派である。親が農業専業である場合はなく、学校教師、軍隊事務官、警察官、電気公社エンジニア、銀行員、医療事務員、地元農産物仲買など給与所得者が多数であった。しかし親が大卒である場合は１例だけであり、かならずしも親が高収入であるわけではなかった。むしろ親が地元 District 外への転勤の機会があったことが、職場の広い情報網や域外拠点（出張先の宿舎）へのアクセスという利点につながるという意味をもっていた。

調査対象となった Sabiny は南ナイロート系の父系社会であり、娘は婚出する存在である。晩婚化の傾向がある高学歴非エリート若年女性たちが農村部への U ターンを忌避するのは、都市部に比べたときの就業機会の少なさだけが理由ではなく、伝統的な結婚規範（20 歳前後での結婚、皆婚 etc.）やジェンダー規範が強くはたらいているからだ。但し、両親とは緊張をはらみつつも進学や就職・結婚の延期に関しては争わず良好な関係を保っている。一方で、農村部の親族や近隣に対しては娘たちに学費を投資したことの「成果」として姉妹が共同して投資し家屋敷地内にレンガ壁とコンクリート床のパーマネント・ハウスを建設するなどの新しい試みがみられた。

本研究は以上のごとく、フィールド調査に依拠したミクロで質的なアプローチから事象を記述していくことにより、これまであまり対象とされてこなかった東アフリカ都市部における大衆消費社会化と、そのなかにある農村部出身の高学歴非エリート層の若年女性たちの社会生活と意識を明らかにし、課題を提起するものであった。今後、まとめられた調査データをもとに、和文論文、英文論文 3 本程度が公刊される予定である。この成果は、同地域における若者を対象にした各国の政策・開発援助プロジェクトの立案に貢献する。

【参考文献】

Epstein A. L. *Politics in an Urban African Community*. Manchester University Press, 1958.

――― *Scenes from African Urban Life: Collected Copperbelt Papers*. Edinburgh University Press, 1992.

Goldschmidt, Walter R. *The Culture and the Behaviour of the Sebei*. University of California Press, 1976.

Melber, Henning. *The Rise of Afirca's Middle Class: Myths, Realities and Critical Engagements*. Zed Books, 2016.

Mitchell, Clyde J. *Social Networks in Urban Situations: Analysis of Personal Relationships in Central African Towns*. Manchester University Press, 1969.

Southall, Roger. *The New Black Middle Class in South Africa*. James Currey, 2016.

Sumich, Jason. *The Middle Class in Mozambique: The State and the Politics of Transformation in Southern Africa*. Cambridge University Press, 2018.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 白石壮一郎	４．巻 第63巻第3号
２．論文標題 ウガンダ現地調査とマケレレ大学：アフィリエーションから共同研究へ	５．発行年 2023年
３．雑誌名 AFRICA（一般社団法人アフリカ協会）	６．最初と最後の頁 30-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　0件／うち国際学会　6件）

１．発表者名 白石壮一郎
２．発表標題 Well-being、指標、人類学：開発学におけるwell-being論の展開
３．学会等名 弘前大学大学院地域共創科学研究科シンポジウム
４．発表年 2022年

１．発表者名 SHIRAISHI, Soichiro
２．発表標題 Concepts and Methods of Research Project
３．学会等名 Kick-off Meeting of Uganda-Japan JSPS Joint Research Project（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 SHIRAISHI, Soichiro
２．発表標題 Situated Choices, Passive Persistence: Atitudes to Academic Career of the Makerere Students from Rural
３．学会等名 Second Meeting of A Study of the Career Decisions of Humanities and Social Sciences' Students after the Popularization of Universities in East Africa.（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 白石壮一郎
２．発表標題 ウガンダにおける高等教育：人社系大卒者のライフヒストリー調査
３．学会等名 弘前大学地域共創科学研究科FD研修会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Soichiro SHIRAISHI
２．発表標題 Extended 'Age of Opportunity'?: Adolescence, Uncertainty and Globalism among Youth in East Africa
３．学会等名 ILCAA International Zoom Symposium（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 SHIRAISHI Soichiro
２．発表標題 Settling Down in Local City, Staying Longer in Bachelor Days: Livelihood, sisterhood and maintenance of aspirations among highly educated women in Eldoret, Kenya
３．学会等名 Congress 2019, International Union of Anthropological and Ethnological Sciences（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 SHIRAISHI Soichiro
２．発表標題 Field Research in/with Local Societies: Toward Effective Collaboration of Universities and Communities
３．学会等名 Seminar at Department of Social Work and Sociology, School of Humanities and Social Sciences, University of Zambia（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 SHIRAISHI, Soichiro
２．発表標題 Comment: Dis-covering Menstruation as Social Phenomena
３．学会等名 Diversifying Menstrual Hygiene Management Education in Uganda.（国際学会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 白石壮一郎
２．発表標題 わかる／かわる：フィールドワーク教育を、専門教育の埒の外へ！
３．学会等名 オンラインワークショップ「人間を育むフィールドワーク教育」
４．発表年 2021年

１．発表者名 白石壮一郎
２．発表標題 高学歴化するアフリカ！：ケニアの高卒・大卒女子の生きる道
３．学会等名 弘前大学人文社会科学部オンラインキャンパス講義
４．発表年 2020年

１．発表者名 SHIRAISHI, Soichiro
２．発表標題 Comment: Toward Local Histories of Sexuality.
３．学会等名 Sexuality in Contemporary Africa: Tradition, Education and Practices.
４．発表年 2023年

〔図書〕　計4件

1．著者名 白石壮一郎（葉山茂 編）	4．発行年 2023年
2．出版社 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター	5．総ページ数 108
3．書名 フィールドワークという探索活動の可能性	

1．著者名 SIINO, Wakana & Ian KARUSIGARIRA Eds.	4．発行年 2021年
2．出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies	5．総ページ数 250
3．書名 Youths in Struggles: Unemployment, Politics, Cultures in Contemporary Africa	

1．著者名 白石壮一郎（共著）	4．発行年 2022年
2．出版社 弘前大学人文社会科学部	5．総ページ数 79
3．書名 地域研究方法論の総合的検討Ⅱ	

1．著者名 白石壮一郎（共著）	4．発行年 2021年
2．出版社 弘前大学人文社会科学部	5．総ページ数 84
3．書名 地域研究方法論の総合的検討	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計2件

国際研究集会 Second Meeting of A Study of the Career Decisions of Humanities and Social Sciences' Students after the Popularization of Universities in East Africa.	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 Kick-off Meeting: A Study of the Career Decisions of Humanities and Social Sciences' Students after the Popularization of Universities in East Africa.	開催年 2022年～2022年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関